

**平成25年度「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における  
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（高等学校）」  
委託業務報告【推進校（学校）】**

**1 学校の概要**

＜生徒数・学級数(平成25年4月現在)＞

学校名	富山県立小杉高等学校（とやまけんりつ こすぎ こうとうがっこう）				
学 年	1年	2年	3年	計	教員数
学級数	4学級	4学級	4学級	12学級	42人
生徒数	160人	158人	156人	474人	
学校のホームページアドレス			http://www.kosugi-h.tym.ed.jp/		

- 設置学科 総合学科
- 設置系列 探究系列（文系総合分野・英語重視分野、理系総合分野・理数重視分野）  
美術・スポーツ系列（美術分野、体育武道分野）  
生活・ビジネス系列（家庭食物分野、家庭保育・福祉分野、商業情報分野）

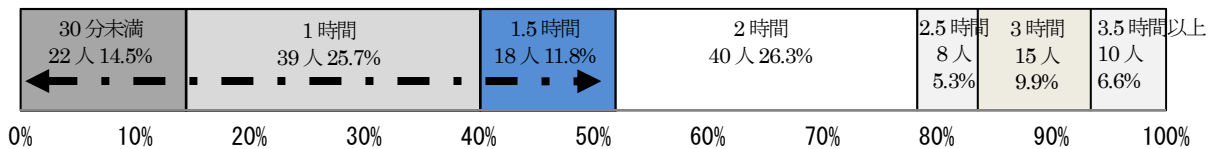
**2 推進校における学力に関する現状**

本校は平成7年度に、普通科・農業科併設校から本県初の総合学科単独校となり、本年度で開設19年目を迎えている。開設当初は第3の学科として新学科に対する期待が大きく、入学者選抜でも高い志願倍率であったが、最近では定員を満たさない場合も見られるようになった。このような志願動向に伴い入学する生徒の学力や学習意欲、目的意識等にも変化が見られ、現在では、中学校までの学力が十分身につけていない生徒も多く入学している。

また入学後は、生徒一人ひとりの多様な能力等の伸長を図るようキャリア教育等の推進に努めてきたが、なかなか進路目標を定めることができず、家庭学習にも主体的に取り組めない生徒が多い（図1）。卒業後の進学状況においても、国公立大学の合格者数は平成17年3月卒の30人を最高に低下傾向にあり（図2）、学力上位層への教師側の指導にも課題が見られる。

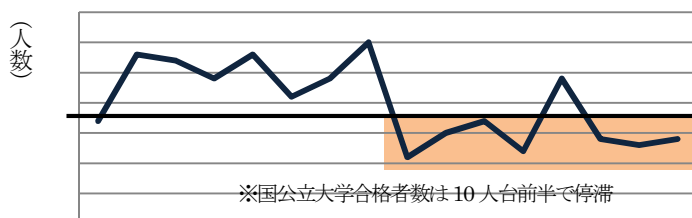
教育の質保証が強く指摘される中、学び直しから国公立大受験や就職まで幅広く対応が求められる総合学科においても（図3）、基礎学力の定着は全ての基盤となる。本調査研究を20年を迎える本校総合学科の転機とし、見直すべきは見直し、信頼に応える学校づくりに全校で取り組むこととした。

〔図1 定期考査期間中の家庭学習時間(平日の場合)〕(平成24年度第1学年2学期末考査時調査)

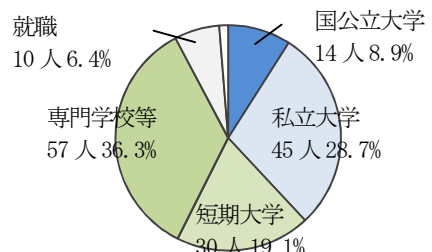


※考査期間中でも家庭学習2時間未満の生徒が半数を占める。

〔図2 国公立大学合格者数の推移〕



〔図3 卒業後の進路状況(H25.3卒)〕



### 3 研究課題

基礎学力の確実な定着を図り、生徒の多様な進路実現を着実に支援する指導体制の構築

### 4 平成 25 年度の重点課題

#### (1) 学ぶ意欲を高め主体的な学びを引き出し、基礎的・基本的な知識・技能等の定着を図る指導の充実

##### ア 学ぶ意欲を高め主体的な学びを引き出す授業研究の推進

生徒の学ぶ意欲を高め主体的な学びを引き出すことが、知識・技能の定着を図る重要な要因と考えられる。生徒の興味・関心や生活に即した題材の教材化や、ペアワークやグループワーク等の効果的な導入など、内容・方法の両面から授業改善に取り組み、教員の指導力の向上を図る。

また習熟度別編成による学び直しにおいても、中学校までの学習内容の反復学習を強いるのではなく、苦手意識の解消や学習意欲の向上に配慮しつつ、生徒の実態に応じ、段階を追って高校レベルの学習内容を習得できるよう、学び合う活動を取り入れるなど教材や授業展開を工夫する。

##### イ 系列選択や進路志望に応じた継続的な指導の充実

系列選択や進路志望に応じた具体的な到達目標を設定するとともに、校時に設定した毎日の朝学習や習熟度別授業、期末考査後の特別編成授業などを効果的に活用し、生徒一人ひとりの進路実現に向け、3年間を見通した計画的、継続的な指導の充実を図る。

#### (2) 思考力・判断力・表現力等の課題解決能力を伸長する指導の充実

##### ア 考えを深め表現する場の設定

各教科・領域において展開を工夫し、他者と交わる中で自らの考えを深めるとともに、その考えを筋道を立てて表現することができるよう、学んだことをまとめ、発表する場を日常的に設けるなど、教科横断的に活用する能力の育成を図る。

##### イ 発展的な教育活動の充実

国のSPPを活用した高大連携による課題研究の実施や、TOEFL教材を活用し英語の4技能を統合的に育成する指導の実践など、大学での学問研究や実社会で必要とされる能力等の伸長を図る。

##### ウ 3年間を見通したキャリア教育や課題研究の実施

総合学科の原則履修科目である1年次の「産業社会と人間」（「キャリアデザイン」）と、2、3年次に開設する「総合的な学習の時間」（「プロジェクトⅠ・Ⅱ」）を一体的に構成し、3年間を見通したキャリア教育や課題研究等を計画的、継続的に実施する。これにより学習意欲や進路意識等の向上を図り、自ら進路を拓く力の育成に努める。

#### (3) 様々な連携協力による教育活動の充実及び調査研究の推進

県教育委員会の委託により、昨年度から進めている県内4大学との入学前教育に関する共同研究など、これまでの高大連携や地域連携の成果と課題を整理し、さらに実践に生かすよう努める。また地元小中学校と連携し、生徒の発達段階に応じた連続的な指導に努めるとともに、保護者や地域の協力を得て、一体的な指導や職場体験学習を実施するなど多様な活動の充実を図る。

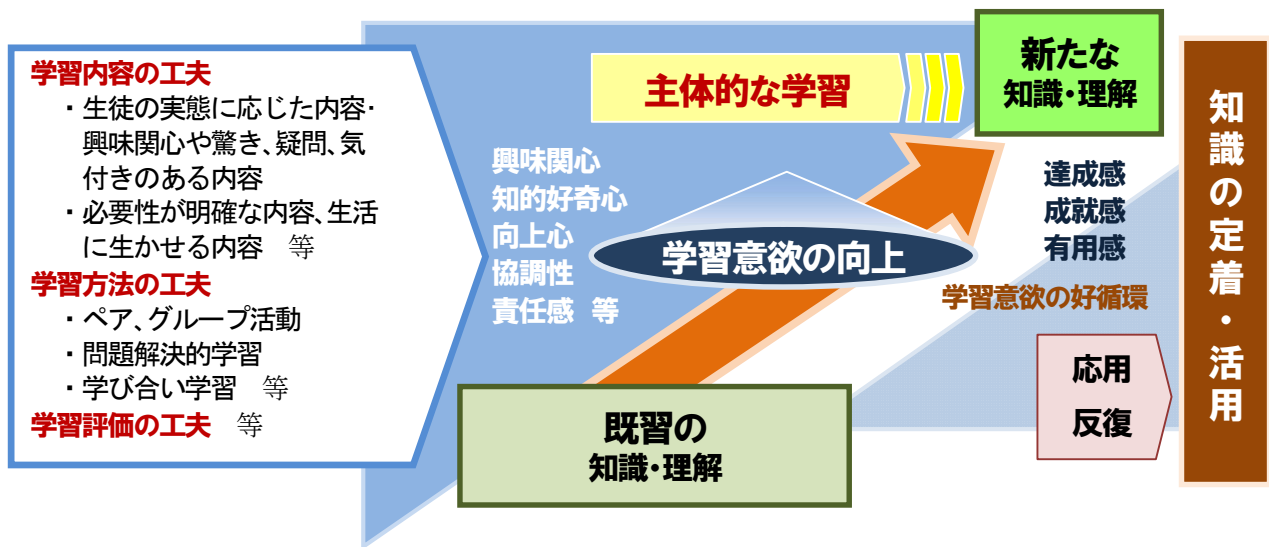
## 5 研究の具体的内容

### (1) 基本的な考え方

重点課題の解決に取り組むにあたり、「基礎学力の定着」や「活用する能力の育成」の過程を次のように整理し、具体的な方策を検討して実践を行った。

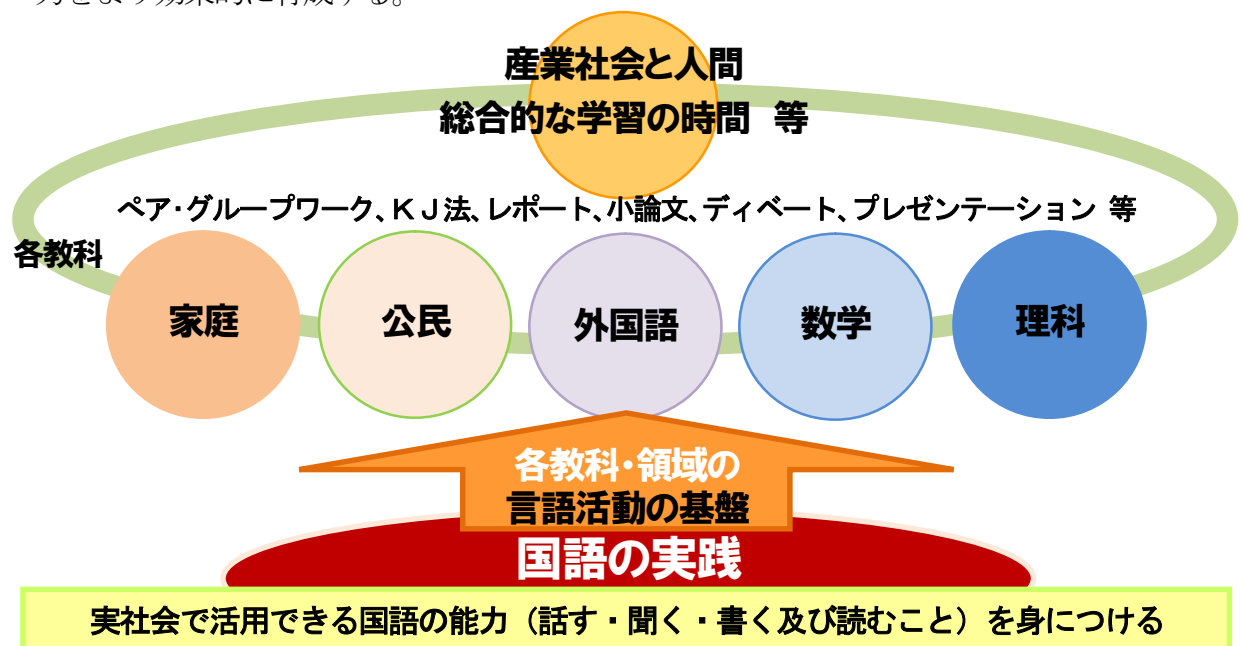
#### ア 基礎的・基本的な知識・技能の定着について

既習事項の学び直しを含め、学習内容や方法、形態等を工夫することにより、生徒の興味・関心を引き出し、学習に主体的に取り組ませることで基礎学力の確実な定着を促す。



#### イ 活用する能力の育成について

各教科や領域において、課題解決的な学習や多様な言語活動等を、連携して計画的、継続的に繰り返し行うことによって、思考力や判断力、表現力等の知識や技能を活用する能力をより効果的に育成する。



## (2) これまでの主な取組

総合学科開設 19 年目の今年度を「総合学科開設プレ 20 年」と位置づけ、学校全体の教育活動を見直すこととし、年度当初から指導體制の整備や授業改善による学力の向上に取り組んできた。9 月からは、月 1 回の公開による授業研究会を計 5 回開催し、文部科学省西辻正副主任視学官、加藤嘉一専門職、国立教育政策研究所山森光陽総括研究官、富山大学人間発達科学部松本謙一教授等から指導助言をいただき、指導の改善を図ってきた。

月	学力向上に関する研究等の推進	おもな活動、連携事業等
4	ー平成 25 年度学校運営方針提示ー 「総合学科開設プレ 20 年」と位置づけ、時代の変化に対応した本校総合学科教育の改善・改革を推進	□フレッシュマンセミナー (1 年全) 本校の前身「農業公民学校」創設者南原繁の精神「The nearest duty(今この時に全力を)」を浸透
5	□林誠一県総合教育センター科学情報部長講話 「新教育課程について」…14(火)	◆親子のカタリバ…11(土) (全校生徒、保護者、教員による意見交換) □職場見学(1 年全) □農業体験ー田植え(1 年全、農業公民学校伝統継承)
6	□第 1 回授業公開ウィーク…10(月)～14(金) 全教員による授業公開	□職場体験学習事前学習開始 ■柔道部、女子ハンドボール部北信越大会出場
7	□山崎一佳小杉中学校校長講話…1(月) 「学習状況調査と中学校の学力向上」 □学校訪問授業案検討…30(火)	■野球部夏の県予選 3 回戦進出 □大学訪問(1 年全)
8	□中高合同研修会(於小杉中)…27(火) 学力向上研修…教科部会及び全体会	■男子柔道部インターハイ出場 ◆南原繁母校香川県立三本松高校交流開始 □職場体験学習(1 年全) □県外進路研修(2 年全) □SPP 講座-富山県科学環境センター
9	□指導案作成に関する校内研修会…10(火) □県教育委員会学校訪問…30(月)	□職場体験学習報告会(1 年全) □農業体験ー学校田稲刈り(1 年全)
10	○第 1 回学力向上推進協議会…25(金) 公開授業、研究協議 指導助言：富山大学松本謙一教授	◆PTA 研修会「思春期のかかわり方」…12(土) 保護者へ学校の現状を報告、指導への協力依頼 □進路ガイダンス・社会人講話(1、2 年全)
11	○第 1 回公開研究会…7(木) 公開授業、研究協議 指導講話：山森光陽総括研究官 □第 2 回授業公開ウィーク…7(木)～14(木)	◆南原繁シンポジウム参加(於学会館)…2(土)
12	□英語科授業研究公開研修会…11(水) 公開授業、指導講話 「グローバル人材の育成と英語教育」 講師：明治大学大須賀直子教授 ○第 2 回公開研究会…13(金) 公開授業、研究協議、指導講話 文部科学省視察：西辻正副主任視学官 加藤嘉一専門職	□寒稽古、学校田収穫米餅つき(1 年全) ◆オレゴン州 ISB 校と姉妹校提携書交換 ◆高大連携県内 4 大学との共同研究 大学推薦選抜合格者の入学前指導に係るプログラムを実践研究 □SPP 講座-富山県立大学

1	<p>□<b>授業力向上研修会</b>…14(火) 講師：松本謙一教授</p> <p>○<b>第3回公開研究会</b>…29(水)</p> <p>公開授業、研究協議</p> <p>指導講話：山森光陽総括研究官</p> <p>○<b>第2回学力向上推進協議会</b>(於高岡西高)…30(木)</p> <p>公開授業、研究協議、指導講話</p> <p>指導助言：富山大学松本謙一教授</p> <p>文部科学省視察：西辻正副主任視学官 加藤嘉一専門職</p>	<p>□SPP 講座-富山県立大学</p> <p>■柔道部男子団体・個人、女子個人県大会優勝 全国高校柔道選手権大会出場決定</p>
2	<p>○<b>学力向上の方策等に関する調査研究連絡協議会</b></p> <p>本校実践事例発表(旧文部省庁舎)…20(木)</p> <p>□<b>協同学習指導法研修会</b>…25(火)</p> <p>講師：上越教育大学大学院大場浩正教授</p>	<p>◆高大連携推進フォーラム(於富山国際会議場) …19(水) 県内4大学との共同研究成果報告</p> <p>◆キャリアデザイン、プロジェクトI・II成果発表会 …27(木)</p>
3	○実践研究報告書・資料集配付	◆オレゴン州 ISB 校姉妹校交流生徒派遣

### (3) 学ぶ意欲を高める授業実践

公開研究会では、国語総合、現代社会、数学B、家庭基礎、英語表現I、英語表現の5教科6科目で授業研究を行い、研究協議等に全教職員が加わり、学校を挙げて学ぶ意欲を高める授業改善に取り組み、指導力の向上に努めてきた。

#### ア 国語総合(1年)…クラス別(40人)

題材：「水の東西」「意見文」「時間と自由の関係について」

##### 〔学ぶ意欲を高める指導上の留意点〕

- ・ 小論文において主題を効果的に伝える方法を学び、それを積極的に使って表現しようとする態度を育成
- ・ 評論文を的確に読解する手順を学び、筆者の主張に対する自分の考えを効果的に表現する力を養成



課題について付箋に意見を書き込み意見交換

##### 〔具体的な手立て・改善例〕

- ・ グループワークを通して他者の考えを知ること、視野を広げ自らの考えを深めるよう展開を工夫

#### イ 現代社会(1年)…クラス別(40人)

題材：「年功序列と能力主義」「日本国憲法と新しい人権」「TPPについて考えてみよう」

##### 〔学ぶ意欲を高める指導上の留意点〕

- ・ 現代社会の諸課題を自らの生活に即して考え、よりよく生きようとする態度を育成
- ・ 多様な学習活動の中で幅広く情報を集め、相互に考えを深め、相手に正しく意見を伝える力を養成

##### 〔具体的な手立て・改善例〕

- ・ グループワークやKJ法、クイズ形式やディベート、プレゼンテーションなど多様な活動を目的に応じ効果的に活用
- ・ 家庭基礎の学習内容等との関連や生徒の活動等に配慮

## ウ 数学B(2年)…選択科目・少人数指導

題材：「階差数列」「群数列」「数学的帰納法」

### 〔学ぶ意欲を高める指導上の留意点〕

- ・ 数学的な思考を楽しみ、知的な喜びを得て、進んで課題に取り組む態度を育成
- ・ グループワークを通して相互の理解を深め自分の考えを論理的に伝える力を養成



互いの気づきから規則性を発見、一般化へ展開

### 〔具体的な手立て・改善例〕

- ・ 事象を数学的に考察し、基本的な概念や原理・法則を自ら導き出すようグループワークを設定し、理解した内容を論理的に説明するよう授業展開を工夫

## エ 家庭基礎(1年)…クラス別(40人)

題材：「一人暮らしのシミュレーション」「食品の選択について考える」「環境に配慮した消費生活を考える」

### 〔学ぶ意欲を高める指導上の留意点〕

- ・ 消費者として生活情報を選択し、よりよい生活を設計する力や実践的態度を育成
- ・ グループワークやピラミッドストラクチャーを活用し、自分の意見を論理的に伝える力を養成

### 〔具体的な手立て・改善例〕

- ・ 身近な生活の話題を取上げることで授業への意欲を高め、グループの話し合いや発表する機会を多く設定
- ・ 現代社会の学習内容等との関連や生徒の活動等に配慮

## オ 英語表現I(1年)…学び直し、習熟度別・少人数指導、ALTとのチームティーチング

題材：「At Shopping Mall」「I want to Be a …」「Saving Resources」

### 〔学ぶ意欲を高める指導上の留意点〕

- ・ 学び合いにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成
- ・ グループワークを通して、自分の考えを発展させ、表現方法を工夫しながら伝える力を養成



ゲームを取り入れながら全員参加の活動を工夫

### 〔具体的な手立て・改善例〕

- ・ ゲームなどを取り入れ、平易な英語を使って、コミュニケーションの中で自分の考えを表現できるよう活動を展開



〔資料1 「英語表現I」第2回公開研究会指導案〕

【Plan of Today's Lesson】

Theme	Lesson 16 I Want to Be a...		
Aims of Today's Lesson	・ To understand what a job is like and qualities required for a job. ・ To achieve the goal: <b>①Students can try to explain a job positively. ②Students can communicate with each other actively.</b> <b>③Students can share others' ideas and have an opportunity to think about their future</b>		
Procedure	Students' activities	Teacher's activities	Evaluation
Greeting / Introduction (15 min.)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Greeting</li> <li>Make groups.</li> <li>Matching jobs with the explanations.</li> <li>Put cards on the blackboard.</li> <li>Understand explanations about jobs.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Greeting</li> <li>Have students make groups.</li> <li>Help students match jobs with the explanations.</li> <li>Help students understand what a job is like.</li> </ul>	Can they try to match jobs with explanations positively? Can they understand what the job is like?
<b>Realize that a job has various aspects.</b>			
Expressing themselves (33 min.)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Answer some questions about qualities required for a job.</li> <li>Think about what a job requires.</li> <li>Talk with group members about what qualities are required for the job.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Help students answer the questions.</li> <li>Give students a few minutes to think.</li> <li>Encourage students to communicate with each other.</li> </ul>	Can they answer the questions positively? Can they communicate with each other actively? Can they express themselves positively? Can they present ideas clearly? Can they understand various ideas?
	<b>Through sharing ideas, discover new qualities students can't notice by themselves.</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>Choose the important qualities among their own ideas.</li> <li>Present their ideas.</li> <li>Understand the qualities presented by other groups.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Help students share their ideas with their group members.</li> <li>Ask some students to present.</li> <li>Help students understand other groups' ideas.</li> </ul>	Can they think of important things for their own dream?
	<b>Think of essentials of work and relate them to own dreams or goals.</b>		
Conclusion (2 min.)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Think of qualities required to make their own dream come true.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tell students to write a sentence about their dream.</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>Take notes</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Give an assignment for the next period.</li> <li>Give directions for the next lesson</li> </ul>	

カ 英語表現(3年)…発展的な学習、選択科目・少人数指導、ALTとのチームティーチング

題材: 「What is important and what is the best way to communicate with each other?」

〔学ぶ意欲を高める指導上の留意点〕

- ・ TOFLE 教材を活用し4技能を統合的に伸長
- ・ エッセイプロジェクトを実施し、グローバル社会におけるコミュニケーションをテーマに言語や国際社会に理解を深化

〔具体的な手立て・改善例〕

- ・ リーディングは概要把握を中心とし、同じトピックでリスニングを行い、その内容と関連づけてスピーキングを実施。ライティングはパラグラフライティングからエッセイライティングへと段階的に学習



ICTを活用したTTによるエッセイライティング

## 6 研究の成果

### (1) 生徒の自己評価等に基づく主な成果

研究授業においては、事後に生徒の自己評価を実施することで、生徒の意識の変化や理解の程度を把握し、実践の成果や課題についてとりまとめを行った。

自己評価は、「興味・関心」、「創意・工夫・表現」、「知識・理解」等の観点から、具体的な評価項目を設定し、生徒の状況を的確に把握できるよう配慮した。

「よくできた…3」、「普通…2」、「やや不十分…1」の3段階の簡潔な評価であるが、各項目について平均値を示すことによって、生徒の反応が明確に表れる結果となった。主な成果として、次の事柄があげられる。

#### 〔主な成果〕

##### ア 学習意欲を高め主体的な学びを引き出し、学力の定着を図る取組について

- ・ 生徒の興味・関心のある題材を教材化することや、ペアワークやグループワークなど多様な授業形態を取り入れることで、生徒の学習意欲が高まり、主体的な学習を引き出すことができた。
- ・ 生徒の興味・関心を高め、主体的な学習を引き出すことができた授業では、生徒の理解が進み、学力の向上・定着の面でも成果が見られた。

##### イ 思考力・判断力・表現力等、活用する能力の育成について

- ・ 現代社会と家庭基礎では学習内容を教科横断的に整理し、連携して多様な言語活動を取入れたことで、生徒は相互の学習の成果を関連付け、グループワーク等で課題解決に向け意欲的に取り組んだ。
- ・ SPP を活用して実施した高大連携による課題研究や、英語表現での英語の4技能の統合的な伸長を図るエッセイプロジェクトでは、生徒が課題解決的な学習に主体的に取り組む、活用する能力を高めることができた。

##### ウ 学校の指導体制について

- ・ 全校体制で授業研究を進めたことにより、授業改善に対する意識が向上した。とりわけ授業者となった若手教師の意識が高まった。
- ・ 授業研究の中心となり、継続して公開授業を行った1学年では例年以上に学力が伸長し、学年を挙げての取組が成果にあらわれた。
- ・ 教科指導について、教科を越えて検討し、授業改善を進める体制を取入れることができた。
- ・ 授業研究を通して、先輩教師が若手教師にアドバイスする機会が日常的に見られ、指導ノウハウを継承する教師間の交流が促進された。
- ・ 指導力向上のための校内研修や小中学校との連携等に全校を挙げて取り組んだことにより、これらの活動を年間を通して位置付けることができた。



松本謙一教授による授業力向上研修会



## (2) 観点別の生徒自己評価結果の考察

### ア 授業改善と生徒の興味・関心の高まり

生徒の興味・関心に関する自己評価は、表1のとおりである。この結果を次のように捉えている。

#### [考察]

- 興味・関心に関する自己評価では、授業実践を行った全教科において多くの生徒が高く評価しており、意欲的に授業に取り組むことができたと考えられる。

生徒の興味・関心のある題材を教材とすることや、ペアワークやグループワークなど多様な授業形態を取入れたことで、生徒の学習意欲が高まり、主体的な学習を引き出すことができた。

- 英語表現 I、英語表現、現代社会、家庭基礎では、実践期間中、継続して良好であったが、数学B、国語総合では、重点課題とした興味・関心、積極性等の自己評価が回を追って低下した。

グループワークなどの活動を取入れることで、一時的に興味・関心を高めることができて、活動の必要性や課題の適否、多様な思考を広げる働きかけや考える時間の設定、気軽に意見を言える関係性の確保など、活動の準備や妥当性が不十分な場合は生徒の主体的な学習を継続することはできない。

[表1 生徒の興味・関心に関する自己評価結果]

	評価項目(興味・関心)	実施月	1年				3年	2年	平均
			国語総合	現代社会	家庭基礎	英語表現 I	英語表現	数学B	
1	授業の内容に関心・興味を持って取り組めた	11月	2.9	<b>3.0</b>	2.9	2.9	<b>3.0</b>	2.8	2.9
		12月	2.8	2.8	2.9	<b>3.0</b>	2.9	2.9	2.9
		1月	2.6	2.9	2.8	2.9	2.9	2.6	2.8
		差	<b>-0.3</b>	-0.1	-0.1	0.0	-0.1	-0.2	-0.1
2	授業の活動に積極的に参加できた	11月	2.8	2.9	2.8	2.9	<b>3.0</b>	2.9	2.9
		12月	2.7	2.8	2.9	2.9	2.9	2.7	2.8
		1月	2.6	2.8	2.9	2.9	2.9	<b>2.5</b>	2.8
		差	-0.2	-0.1	0.1	0.0	-0.1	<b>-0.4</b>	-0.1
3	先生の話をしっかり聞くことができた	11月	2.9	2.9	2.9	2.9	<b>3.0</b>	2.6	2.9
		12月	2.7	2.8	2.9	<b>3.0</b>	2.9	2.7	2.8
		1月	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
		差	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	0.2	-0.1
4	授業では自ら考えたり、クラスメートの意見を聞いたりして、最後まで粘り強く取り組めた	11月	2.8	2.9	2.7	2.9	2.9	2.8	2.8
		12月	2.7	2.9	2.8	2.9	2.8	2.9	2.8
		1月	2.6	2.9	2.8	2.9	2.8	2.6	2.8
		差	-0.2	0.0	0.1	0.0	-0.1	-0.2	0.0
平均		11月	2.9	2.9	2.8	2.9	<b>3.0</b>	2.8	2.9
		12月	2.7	2.8	2.9	<b>3.0</b>	2.9	2.8	2.8
		1月	2.6	2.9	2.8	2.9	2.8	2.6	2.8
		差	<b>-0.3</b>	0.0	0.0	0.0	-0.2	-0.2	-0.1

## イ 思考力・判断力・表現力等、活用する力の伸長

生徒の活用する力に関する自己評価は、表2のとおりである。この結果を次のように捉えている。

### 〔考察〕

- 「英語表現Ⅰ」では、創意・工夫・表現の各評価項目について、多くの生徒が高く評価している。学び直しに配慮した授業であるが、生徒の実態に応じた多様な言語活動に、積極的に取り組むことができたと考えられる。
- 「現代社会」や「家庭基礎」においても、比較的高い評価となっている。グループワーク等において、互いに意見交換し理解を深める活動が良好に行われたと考えられる。

教科間の連携を図りながら生徒の学習の到達状況に応じ、ペアワークやグループワークの中で多様な言語活動を取り入れることが、生徒の思考力や判断力、表現力の育成に効果があった。

- 「国語総合」、「数学B」では、自分の意見をわかりやすく表現することや、課題解決に向けて話合うことについての評価が低い。グループワーク等を有効に活用することができなかったと考えられる。

生徒の実態に応じた効果的な活動を取り入れることが重要である。教科特性を踏まえつつ、どの場面でどの活動を取り入れるか、十分検討しなければならない。

〔表2 創意・工夫・表現に関する自己評価結果〕

	評価項目(創意・工夫・表現)	実施月	1年				3年	2年	平均
			国語総合	現代社会	家庭基礎	英語表現Ⅰ	英語表現	数学B	
5	授業での課題に対して積極的に解決方法を考えることができた	11月	2.7	2.8	2.7	2.9	2.6	2.8	2.8
		12月	2.6	2.6	2.7	2.9	2.7	2.7	2.7
		1月	2.6	2.8	2.8	2.9	2.6	2.4	2.7
		差	-0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-0.4	-0.1
6	率先してグループで意見交換を行うことができた	11月	2.8	2.8	2.5	2.9	2.6	2.1	2.6
		12月	2.5	2.6	2.6	3.0	2.4	2.4	2.6
		1月	2.3	2.9	2.7	2.9	2.6	1.7	2.5
		差	-0.5	0.1	0.2	0.0	0.0	-0.4	-0.1
7	グループで自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができた	11月	2.6	2.7	2.5	2.9	2.4	1.7	2.5
		12月	2.3	2.6	2.7	2.9	2.4	2.1	2.5
		1月	2.3	2.8	2.8	2.9	2.3	1.6	2.5
		差	-0.3	0.1	0.3	0.0	-0.1	-0.1	0.0
8	相手の感想や意見を尊重して、話し合うことができた	11月	2.8	2.8	2.8	2.9	2.8	2.6	2.8
		12月	2.5	2.9	2.8	2.9	2.7	2.4	2.7
		1月	2.5	2.8	2.8	2.9	2.7	2.1	2.6
		差	-0.3	0.0	0.0	0.0	-0.1	-0.5	-0.2
9	相手の意見を聞き自分の見方や考え方を深めたり、変えたりすることができた	11月	2.6	2.9	2.7	2.9	2.8	2.4	2.7
		12月	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.7
		1月	2.6	2.8	2.8	2.9	2.8	2.4	2.7
		差	0.1	-0.1	0.1	-0.1	0.0	0.0	0.0
10	クラスで発表するとき、簡潔でわかりやすく話すことができた	11月	2.2	2.6	-	2.9	2.6	-	2.6
		12月	2.3	2.5	2.5	2.8	2.3	1.8	2.4
		1月	2.4	2.7	2.7	2.8	2.4	-	2.2
		差	0.2	0.1	-	0.1	-0.2	-	-0.4
平均		11月	2.6	2.8	2.6	2.9	2.6	2.3	2.6
		12月	2.5	2.7	2.7	2.9	2.6	2.3	2.6
		1月	2.5	2.8	2.8	2.9	2.6	2.0	2.6
		差	-0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	-0.3	0.0

## ウ 知識・理解の伸長・定着

生徒の知識・理解に関する自己評価は、表3のとおりである。この結果を次のように捉えている。

### 〔考察〕

- 「英語表現Ⅰ」、「現代社会」、「家庭基礎」、「英語表現」については、生徒の知識・理解についても、自己評価は高く良好な結果となっている。

生徒の学習意欲を高め、主体的な学習を引き出すことが、生徒の学力の向上や定着に好循環を促していると考えられる。

学び直しの生徒を対象とした「英語表現Ⅰ」においても、生徒が意欲を持って主体的に学習に取り組み、知識・理解の面においても学習が捗った。

- 「国語総合」や「数学B」では、教師の説明や質問を生徒が十分に理解できていないという状況が明らかである。その結果、既習の知識の活用や新たな知識獲得ができず、学習に困難を感じている生徒が多いことが推察される。

学習意欲が高まらず、また授業が理解できたという達成感や充実感が低く、この状況では苦手意識を助長するという悪循環に陥りかねない。生徒の声を謙虚に受け止め、指導の改善を図る必要がある。

「数学B」は、選択授業で少人数指導を行っているが、そのメリットを生かしてきていない。

〔表3 知識・理解に関する自己評価結果〕

	評価項目(知識・理解)	実施月	1年				3年	2年	平均
			国語総合	現代社会	家庭基礎	英語表現Ⅰ	英語表現	数学B	
11	今回の学習で新たな知識を得ることができた	11月	2.6	2.9	2.7	2.9	2.8	2.4	2.7
		12月	2.7	2.8	2.8	2.9	2.7	2.6	2.8
		1月	2.6	2.9	2.9	2.9	2.9	2.3	2.8
		差	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	-0.1	0.1
12	今回の学習で自分でできることを増やすことができた	11月	2.5	2.9	2.6	2.9	2.8	2.1	2.6
		12月	2.7	2.8	2.8	2.9	2.7	2.6	2.8
		1月	2.5	2.9	2.9	2.9	2.9	2.1	2.7
		差	0.0	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1
13	今までに学習した知識や技能(計算など)を使って、授業に取り組むことができた	11月	2.5	2.9	2.8	2.9	2.7	2.7	2.8
		12月	-	2.7	2.7	2.8	2.3	2.6	2.6
		1月	2.5	2.8	2.8	2.8	2.7	2.4	2.7
		差	0.0	-0.1	0.0	-0.1	0.0	-0.3	-0.1
14	先生の説明が理解できた	11月	2.9	2.9	3.0	2.9	3.0	2.4	2.9
		12月	2.8	2.8	2.9	2.8	2.8	2.6	2.8
		1月	2.6	2.9	2.9	2.9	2.8	2.2	2.7
		差	-0.3	0.0	-0.1	0.0	-0.2	-0.2	-0.2
15	先生の質問が理解できた	11月	2.8	2.9	2.9	2.8	3.0	2.1	2.8
		12月	2.6	2.8	2.8	2.9	2.8	2.6	2.8
		1月	2.6	2.9	2.8	2.9	2.8	2.1	2.7
		差	-0.2	0.0	-0.1	-0.1	-0.2	0.0	-0.1
平均		11月	2.7	2.9	2.8	2.9	2.9	2.3	2.7
		12月	2.7	2.8	2.8	2.8	2.6	2.6	2.7
		1月	2.6	2.9	2.9	2.9	2.8	2.2	2.7
		差	-0.1	0.0	0.1	0.0	-0.1	-0.1	0.0

### (3) 学び直しに配慮した「英語表現Ⅰ」での顕著な成果

前項で考察したように、中学校での既習事項の学び直しに配慮して実践した「英語表現Ⅰ」においては、生徒の学ぶ意欲を高め、主体的な学びを引き出し、生徒が積極的に学習に取り組み、学力の定着においても成果が見られた。以下に、この授業で学んだ生徒の声と成果をあげることができた要因を例示する。

#### ア 事後の生徒アンケートから

9月から1月の授業実践後に行った、生徒の英語学習に対する意識の変化等についてのアンケート結果には、授業を通して、多くの生徒が英語に対する苦手意識がなくなり、進んで学習に取り組もうとする姿勢が育ったことがはっきりと表れている。

#### 〔資料2 「英語表現Ⅰ」事後生徒アンケート抜粋〕

このアンケートでは、英語学習に対する意識の変化を5段階(1:変わらなかった～5:かなり変わった)で自己評価するとともに、事後の感想を記述回答した。

生徒の主な感想等 …「英語表現Ⅰ」 1年生 習熟度別 ティームティーチング 19人

##### 〔授業評価を5とつけた生徒〕

- ・ 苦手と思っていたが、分からないことを気軽に先生に聞いて、友達と相談しながら学べるので、本当に好きになれた。
- ・ グループの話し合いがあって楽しいし、お互いに英語で意見を言って、難しいというイメージが楽しいものになった。

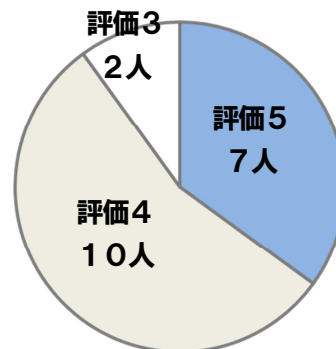
##### 〔授業評価を4とつけた生徒〕

- ・ 楽しく英文法を覚えることができ眠くならないし、辞書も使えるようになった。
- ・ 人の意見を聴くことで自分の意見を深めることができ、楽しく、苦痛を感じることなく取り組むことができた。
- ・ ただ先生の言っていることをノートに書くだけの授業と違って楽しく勉強できた。
- ・ 中学から英語が大嫌いだったが、このクラスで英語が結構おもしろくなった。

##### 〔授業評価を3とつけた生徒〕

- ・ 自分で考える力が付いたと思う。英語表現は楽しく好きだという印象が強くなった。

〔英語学習に対する意識変化〕



変わらない：評価1～かなり変わった：評価5

#### イ 事後の考察から

授業実践を振り返り、成果をあげることができた要因等については、以下のことが考えられる。

- ・ 中学校段階の学び直しに配慮した授業であったが、学習内容や方法を工夫することにより、生徒の学ぶ意欲を高め、主体的な学習を引き出すことができた。
- ・ 教師と生徒、生徒同士の関係性に配慮し、間違っても気にせず話しやすい雰囲気づくりに配慮したことで、生徒が積極的に活動に取り組むことができた。
- ・ 平易な英語を使い、英語で表現することに慣れさせ、「さらにうまく自分の思いを伝えたい。様々な表現を使えるようになりたい」という意欲や必要性を高めながら、高校の学習レベルの内容を習得するよう、段階を追って進めたことが生徒の理解を促した。
- ・ 平易な英語表現による単調な繰り返しに終始することなく、よりレベルの高い課題に取り組ませ、ステップアップを実感できる授業展開に心がけたこと、また自由な発想で考えが広がるようオープンエンドな展開に配慮したことで、生徒の主体的な学習を持続させることができた。
- ・ 英語科教員とALTの準備段階からの円滑な連携が、ティームティーチングの効果を一層高めた。

## 7 今後の課題

次年度においても、今年度の研究成果を各教科の実践に生かすとともに、これまでの研究体制を継続し、残された課題等について、幅広く外部のご意見をいただきながら、授業改善に取り組み、教育の充実に努めることとしたい。

本校の授業研究は、今年度が初めての取組であり、実践は緒についたばかりである。「学力の向上は、ひとえに教師の指導力の向上にある」との松本謙一先生の言葉を踏まえ、継続して全校体制で授業改善に取り組むことが、次年度の大きな課題である。

また、多くの小中学校では、毎年授業研究を行いながら教師の指導力の向上を図り、学校を挙げて生徒の学力向上に努めている。今後、教師の大量退職期を迎え、若手が大幅に増加すると見込まれている。高校においても、組織的な授業研究や授業改善が日常的に行われるようにし、指導力の向上を図り、生徒の学力高めていくことが重要である。

### (1) 学ぶ意欲を高め主体的な学びを引き出す指導の充実について

今年度の実践研究では、「国語総合 I」、「数学 B」の授業実践において、生徒の主体的な学習を円滑に引き出すことができず、指導に課題を残すことになった。

次年度は、1年生の「国語総合 I」及び「数学 I」の授業で、習熟度別の少人数指導の時間を設定し、中学校の既習事項の学び直しに配慮した効果的な指導の在り方について、さらに実践研究を進める。また、「英語表現 I」など、成果のあった他の教科についても、さらなる授業改善に向け、引き続き実践研究を進める。

### (2) 学習評価と指導の一体的な改善について

今年度は学習意欲を高めることに重点を置き授業改善に取り組んだが、次年度は、結果の側から教育水準の維持向上を図る学習評価の観点にも重点を置き、学習評価と指導の一体的な改善に取り組むこととする。そのため、各教科・科目において、学習指導要領を踏まえ、生徒の系列選択や進路志望に即した学習到達目標や評価基準の適切な設定を行うとともに、目標の達成に向け、生徒の実態に応じた効果的な指導の在り方について実践研究を進める。

### (3) 思考力・判断力・表現力等の課題解決能力を伸長する指導の充実について

#### ア 教科横断的な言語活動の充実

自分の考えをまとめ、筋道を立てて表現し、さらに意見交換で深めるなど、各教科・領域において、その特性に応じた多様な言語活動を取り入れる。また、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を活用し、課題研究等の活動に取り組み、3年間を見通して計画的、継続的に課題解決能力の育成を図る。

#### イ 発展的な学習の充実

今年度実施した国の SPP を活用した高大連携による課題研究や、TOEFL 教材を活用しての英語の 4 技能を統合的に育成する授業実践については、今年度の実践成果を生かしつつ、将来の理工系人材を育成するサイエンスプログラムやグローバル人材を育成するグローバルプログラムとして体系化することができるよう、さらに実践研究を深める。

### (4) 様々な連携協力による教育活動の充実について

地域や大学など、学校外との連携協力により進めてきた職場体験学習や高大連携等の多様な取組については、その成果と課題を検証し、より効果が期待できる活動に精選する。また引き続き小中学校と連携し授業研究を行うとともに、生徒の発達段階に応じた連続的な指導に努める。加えて保護者との連携についても、学校での指導により多くの理解と協力を得ることができるよう、具体的な手立てをさらに工夫する。



8 その他（ 推進校における実践研究の全体構想 ）

基礎学力の確実な定着を図り、生徒の多様な進路実現を着実に支援する指導体制の構築

教員の指導力向上

意欲を高め主体的な学習を引き出す授業改善

全教員での授業研究の推進

公開研究会を継続して実施、生徒の実態に即した題材の教材化や、グループワーク等の多様な学習形態の活用など、内容・方法の両面から授業改善に努め、生徒の主体的な学びを実現

教科横断的な言語活動の導入

各教科や領域において、互いに考えを述べ理解を深め合う多様な言語活動を取り入れ、知識を活用する能力を育成

系列科目  
選択履修

3 系列に分かれ、進路に応じた基礎学力や専門性を身につけます

<p><b>探究系列</b> 理系・理数重視/文系・英語重視 国立大学等進学対応</p>	<p><b>美術・スポーツ系列</b> 美術/体育武道 美術系・体育系進学対応</p>	<p><b>生活・ビジネス系列</b> 食物・保育・福祉/商業・情報 専門学校等進学対応</p>
--	---	--

発展的な学習の充実

高い能力や専門的な能力を伸ばす機会の拡充

グローバルプログラム

海外進学を視野に、英語重視分野の選択者を対象に TOEFL 教材を活用した英語の 4 技能を統合的に伸長する多様な言語活動を充実、実践的な英語能力を伸長

サイエンスプログラム

国のサイエンス・パートナーシップ・プログラムを活用しての高大連携による課題研究等を実施、科学的な思考力や課題解決能力を伸長

卒業

3年

多様な進路実現

実力養成

プロジェクトII

2年

進路に応じた専門性の向上

プロジェクトI

1年

基礎学力の  
確実な定着

学び直し

習熟度別学習

朝学習

週末課題

学習習慣の定着

基本的な生活習慣の定着

家庭との連携

保護者との連絡を密にし、基本的な生活習慣や学習習慣の定着等を推進

入学

産業社会と人間・キャリア教育  
キャリアデザイン

愛着や誇り、自尊感情の醸成

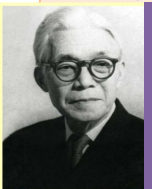
南原スピリッツ

南原スピリッツの継承

本校創設の父「南原 繁」の理念を継承、母校への愛着と誇りを喚起

「The nearest duty」

「今、このときに全力を」をモットー



南原 繁 1889-1974

27歳の若さで射水郡長となる。本校の前身「農業公民学校」創設に尽力。その後、東京大学総長となり、戦後民主教育制度の基盤を築く。

進路目標の明確化

キャリア教育

3年間の計画的・継続的な支援推進

1年「キャリアデザイン」、2年「プロジェクトI」、3年「プロジェクトII」を開設。体験を通して進路意識を高め、進路実現を支援

1年全員参加のインターンシップ

夏季休業中に地元事業所等の協力を得て3日間の職場体験学習を実施



自主活動の活性化

生徒会・PTA 活動

親子のカタリバ開催

全校生徒と PTA 役員が学校生活などについて意見交換、意見を踏まえ生徒会活動を充実



生徒会自主企画の実施

体育大会での生徒会提案や「小杉カルチャーフェスティバル(自主文化祭)」の開催等自主活動を充実

